

Jリーグクラブの監督選定要因

Selection factor of J-League coaches

スポーツクラブマネジメントコース

5017A326-4 深井 正樹

研究指導教員：間野 義之 教授

1. 緒言

Jリーグクラブは利益の追求に加え、試合での勝利を常に求められる。勝敗という成果に対して多くの責任を負うのが、監督である（武藤，2013）。勝敗の規定要因を大きく占めるのは選手自身の能力であるが、それらの練習や試合に際する指揮をとる指導サイドの役割も重大である（加納，2002）。

特にサッカーではチームの成績のみならず、クラブ全体の運営をなす経営者の一人と認識されており、監督が担う役割の大きさが指摘されている（加納，2002）。監督は、フロントが供与し得る資金の中で最大の成果を求められ、成績により契約が更新されないリスクもあることから、雇用者でもあり経営者的側面もある（武藤，2013）。Jリーグクラブにおいて監督選定が重要であることは明らかである。

翻って、組織のトップ陣の交代については、企業経営に関する研究が多く蓄積されている。杉岡（2014）は、企業経営を考える際にトップ交代に着目することは重要な意味を持ち、環境変化が激しいビジネス界で生き残るには、優れた新トップを選任し企業の取り巻く変動に対応していくことが最重要事項であると指摘している。また、社長交代の危険は、パフォーマンスに強く依存しており、業績が悪化した時に社長交代確率が高まる（阿部・小黑，2004）。企業において会社を成長させることが求められ、業績不振を好転させることや企業を活性化させるためにはトップ陣の交代は不可欠であると思われる。大沢（2004）は、選定された経営者の戦略性や起業精神が企業の

マネジメントに大きな影響を与えると指摘する。そのため、選定における選定基準がいかに重要であるかが伺える。

しかしJリーグクラブは、チーム内だけではなく、ファンや地域、スポンサーなど一つの組織に関わるステイクホルダーが、企業より性質上多く存在する（武藤，2013）。また、企業は収益を生み出すことを追求しているのに対し、スポーツチームは勝利を追求することから、企業経営に関する選定要因をすべて適用できるわけではない。しかし、Jリーグクラブの監督選定や企業幹部の選定要因は明らかにされていない。

2. 目的

本研究の目的は、Jリーグクラブの監督を選定するにあたり、選定者の判断に影響を与えている要因について明らかにすることとした。

3. 方法

3-1 調査対象者

本研究ではJリーグオリジナル10に着目し、横浜フリューゲルスを除く、9チームの強化担当責任者と10年以上の強化担当責任者歴を持つ3名の計12名を対象とし回答の得られた11名を対象者とした。

3-2 データ収集

1対1の半構造化インタビューを行い、ICボイスレコーダーにて録音し、随時、逐語録を作成した。インタビューは一人に対して60～90分かけて実施した。

3-3 分析方法

研究協力者と、監督選定要因に関する文脈に

印を付け2名が一致した箇所、または1名の場合は協議した上で要因を抽出した。抽出した要因を、3名の研究協力者と討論し、コード名を作成した。コード名を比較し、類似したものをまとめてサブカテゴリーとした。サブカテゴリーの作成後、1名の研究協力者の査読を受け、客観的視点を加えることで信憑性を高めた。そして、サブカテゴリーからカテゴリーを作成し、監督選定要因を概念化していった。インタビューの分析結果の妥当性を確保するため、対象者12名のうち回答を得られた11名にアンケート調査を実施した。監督選定要因への同意の程度について、その割合を算出した。先行研究を参考に、4件法で行った。

4. 結果

Jリーグクラブの監督選定要因に関連している文脈を対象とし分析を行った。その結果、155の意味単位が抽出され、48のサブカテゴリーが生成された。さらに14カテゴリーに集約し、最終的に【クラブの組織的要因】【候補者に関する要因】の2領域に分類された。

5. 考察

選定者の判断に影響を与える要因は、クラブ現状を分析し、監督候補を選定し決定していく過程で重要な【クラブの組織的要因】と、【候補者に関する要因】の、2領域であることが明らかにされた。

同意率で、強く同意すると、同意する、の合計が100%になる要因である〔クラブオーナーの経験を基にした判断基準〕、〔推薦してきた人物への信頼〕、〔候補者の道德観〕、〔候補者の選手・スタッフへの配慮〕、〔クラブ関係者とのコミュニケーション能力〕、〔選手とのコミュニケーション能力〕、〔マスメディアとのコミュニケーション能力〕、〔候補者のクラブ

経済状況への理解〕、〔候補者のクラブ戦力に関する現状への理解〕、〔候補者の日本人選手の特長への理解〕、〔候補者の日本文化への理解〕、〔候補者の戦術の多様性〕、〔候補者の指導現場での問題解決能力〕、〔候補者の戦術面以外でのチームマネジメント能力〕の14サブカテゴリーは監督選定において重要な要因であることが結果から示された。

監督選定要因の同意率が50%未満であったサブカテゴリーは、〔選定者の経験を基にした判断基準〕、〔候補者の国籍〕、〔候補者の出身地〕、〔候補者の選手としてのクラブ在籍経験〕、〔候補者の現役時代にプレーしたポジション〕、〔候補者の有名選手の指導実績〕、〔候補者の世間的知名度〕、〔候補者のサポーター知名度〕であった。

6. 結論

本研究の目的は、Jリーグの強化担当責任者を対象にJリーグクラブの監督選定において選定者の判断に影響を与えている要因を明らかにすることであった。本研究では、半構造化インタビューにより得られたデータを研究協力者2名（博士課程1名、修士課程1名）と協議を重ね、妥当性、客観性を高めた。分析結果を確かなものにするために、調査参加者に同意率の測定を行った。本研究では、Jリーグクラブの監督選定に影響を与えている要因は、候補者の《パーソナリティ》や、《コミュニケーション能力》や、《日本の環境への理解》を、オーナーの判断基準と照らし合わせながら、監督選定をおこなっていることが明らかになった。

